

基山駅周辺 昭和51年頃

基山町教育委員会発行『基山町の20世紀』より転載（一部改編）

## 基山町の変遷ときやまぐち

本町は、古代から現在に至るまで古代官道・長崎街道・国道・高速道路・鉄道など、九州を東西南北に結ぶ幹線交通路沿いに位置し、一貫して交通の要衝地としての歴史をつくってきました。

江戸時代では、<sup>き</sup>基<sup>や</sup>肆<sup>ぶ</sup>養父と呼ばれていた本町と鳥栖市の東半分くらいの地域は、肥前国に属しながら佐賀藩ではなく対馬藩の飛び地（田代領）として領されていました。地図上では、筑前国・筑後国との国境にもあることから佐賀藩・福岡藩・久留米藩という大きな藩にまわりを囲まれた小さな地域がポツンと孤立したような形ですが、町域に小倉と長崎を結ぶ長崎街道が通っていたことにより、閉鎖的な地域とはならず多くの人々の往来があり、様々な交流の中から特徴ある産業や文化が育まれました。（第1図参照）



（第1図）田代領位置図

基山町史下巻より転載（一部改変）

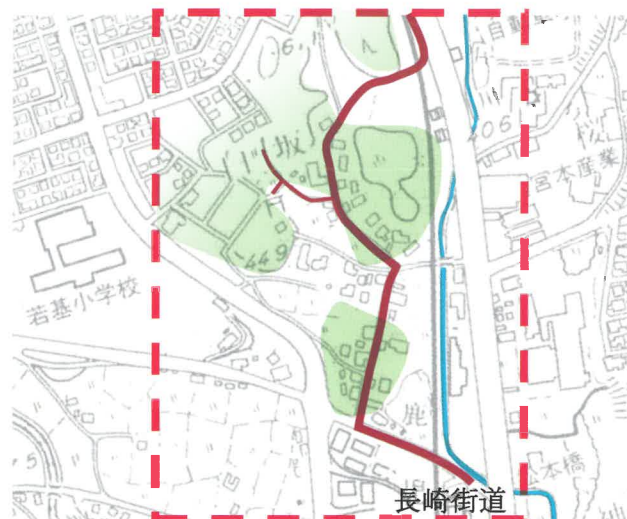
この流れは、明治となり佐賀県に属してから現在に至っても受け継がれてきています。本町域でこのような歴史に大きな役割を果たしたのが、江戸時代に長崎街道沿いに成立した木山口町や白坂町であったと思われます。



木山口町と白坂町は、江戸時代に作成された元禄絵図にも描かれており、同絵図によれば、木山口町が白坂町より18年ほど早い正保2年(1645)に宮浦東村の人々により長崎街道沿いの新町として成立していたことがわかります。(第2・3図参照)

そして間もない承応3年(1654)頃、町の鎮守として若宮八幡神社が創建されています。この神社の由来を記した古文書によると、長崎街道の西側にある千塔山の麓を切り開いて町をつくり、基八間山(荒穂神社があったとされる基山)の入り口なので木山口町と名付けたとされています。

また木山口町は、いつの頃からか通称「きやまぐら」と称されるようになり、成立から本町の繁栄を支えた中心的集落として発展しました。基山町史の記載によると我が国の四大売薬の一つにあげられた田代売薬発祥地の有力地と考えられています。



基山町全図(白坂町付近抜粋)



基山町全図(木山口町付近抜粋)



(第3図) 元禄絵図にみる白坂町

(宗家文庫資料)

### 十日恵比須祭

今年も木山口町の鎮守である若宮八幡神社の境内にある恵比須神社で、「十日恵比須祭」が開催されました。この祭礼は、若宮八幡神社にある歴史的建造物を背景として、古くから氏子などの皆さんにより受け継がれてきたもので、この地域の歴史的風致を形成している伝統行事の一つです。

当日は、数日前からの雪が残る寒い状況でしたが、子供から御年配の方までが途切れる



(第2図) 元禄絵図にみる木山口町

(宗家文庫資料)



ことなく訪れていました。また今年も、モール商店街で基山町商工会青年部の各種イベントが行われ、生バンドの音色などが聞こえる中で、祭礼も賑わっていました。



若宮八幡神社境内での招福銭交換の風景

(招福銭交換について)

このお祭りの特徴として行われている招福銭交換ですが、由来は不明ながら小銭程度のお金を借用する行為が行われています。

翌年の1月10日に倍返しを条件に貸し出し、帳簿に氏名・住所などを記入し借用されています。このお金はすぐに使った方が御利益があると言い伝えられており、返却に来なかった場合は、氏子の中から取り立て人が借用者宅まで出向いて返済を求めることもあります。

### 歴史的風致形成建造物の指定

本協議会の事業範囲内の歴史的建造物である基山商店の主屋と精米所について、基山町により令和2年10月5日付けで歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致形成建造物」として指定されました。(建造物の概要は、基山町ホームページの「基山町歴史的風致維持向上計画」の第2章-5木山口町にみる歴史的風致を御参照ください。)



基山商店精米所



基山商店主屋  
(基山商店より提供)

### 令和2年度活動報告

1. 設立会議及び総会
  - (1) 期 日 令和2年7月29日(水)
  - (2) 場 所 基山町民会館
2. 学習会及び事業範囲の視察
  - (1) 期 日 令和2年9月16日(水)
  - (2) 場 所 まちなか公民館(モール商店街内)・木山口町一帯
3. 先進地視察(太宰府市)
  - (1) 期 日 令和2年11月18日(水)
  - (2) 場 所 太宰府天満宮門前六町、馬場公民館

※1~3の概要については、1月発行の『きやまぐち』vol.1を御参照ください。
4. 実松川の河川改修に伴う景観設計について
  - (1) 期 日 令和3年2月19日(金)
  - (2) 場 所 基山町民会館
  - (3) 議 題 実松川河川改修に伴う景観設計について

本協議会の事業範囲内の長崎街道沿いで予定されている実松川の河川改修について、佐賀県東部土木事務所より計画案の説明がありました。担当者からの説明を受けて河川改修に伴う護岸の形状や景観などについて意見交換を行いました。

## 協議会活動の目的

木山口町は、長崎街道沿いの町場として江戸時代以来多くの人々が集まり賑わいを見せてきた空間です。長崎街道の間宿（あいのしゅく）としての造り酒屋、製薬会社など地域の伝統を継承する産業も大切に受け継がれています。その証として歴史的建造物が息づく町並みが連続するとともに、人々によって長く維持されている歴史的風致があります。

本協議会は、本町の歴史的風致の維持向上による歴史まちづくりのために町が策定した、基山町歴史的風致維持向上計画に基づき令和2年7月に設立し、木山口町地域の共有財産である歴史的風致の維持・向上を目指して取り組みを行っています。

## 歴史的風致とは

「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」には、歴史的風致とは「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」とであると定義されています。

つまり歴史的風致とは、各々の地域で歴史上重要な建造物やその周辺の町並みなどと人々の営みが一体となったものです。これらを維持向上することにより個性豊かな地域社会の実現と町の健全な発展や文化の向上を図ることを当協議会の目的としています。

### 旧長崎街道 商工会付近の風景の比較



昭和46年頃撮影

基山町教育委員会発行『基山町の20世紀』より転載



令和2年撮影

木山口町には昔からの建造物や人々の活動等（歴史的風致）が現在も残されています。写真左に写っているのは西海製薬の社屋で、現在も変わらず営業されています。昭和46年頃の撮影当時から50年近く経過しても人々の活動が変わらず続いております。

## きやまぐら Vol.2

【編集・発行】木山口町まちづくり協議会

【事務局】基山町定住促進課 歴史のまち推進係

【発行日】令和3年3月15日